

■児童・生徒の学力の状況

○今年度、RSTの結果では、基礎読解力の6/7の視点において平均と比較すると、微量ではあるが下回っている。基礎的、基本的内容の理解についての定着が今ひとつ十分ではないと言える。
 ○漢字の定着、活用する力の個人差が大きい。
 ○算数では、TOFASの結果からすべての単元の正答率が全体平均よりも高く、これまでの学習の知識が定着していると考えられる。思考力・判断力・表現力については、知識・技能よりも習熟度が低い。
 ○学年を通して「わり算」の単元の正答率が低く、計算の仕方の定着が不十分である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○課題解決のために、図や表に表したり、言葉の意味や主述の関係、修飾・被修飾の関係を考えながら文章を書いたりしようとする意識を高める指導が十分とはいえない。
 ○既習の学習内容が定着しているかどうかを確認する時間や、定着ができていない児童への指導する時間が必要である。
 ○年間計画にもとづき他学年との系統性を意識して指導するようにしているが、上手く生かされていない。
 ○教員によって、電子黒板や一人一台端末等のICT機器を効果的に活用した授業を展開できる力に差がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

「よく考え、最後までやりぬく子」を育てる(学力の向上)
 ◎板橋区授業スタンダードを徹底し、児童が見通しをもち、学び方を身に付け自力解決できるようにする。児童一人ひとりが、何を学ぶかを意識し、何を学んだのかを自覚できるように思考の過程が分かるノートづくりをする。課題の発見と解決に向け、主体的・協働的に学ぶ学習を多く取り入れ、児童に思考力、判断力、表現力を身に付けさせる。
 ◎ユネスコスクールとしての教育理念「学びの4本柱」(知ること、試すこと、人間として生きること、共に生きること)を重視した活動を行う。
 ◎授業力向上に向け、教員は研鑽・研究に励む。
 ◎生活科や総合的な学習の時間の学習内容を充実させる。課題設定から問題解決までの過程を大切に、子どもが興味をもって取り組み、発達段階に即した学習活動ができるようにする。
 ◎一人一台端末を学校や各家庭にて積極的に活用し、端末内のアプリケーションを活用して意見交流や考えの共有を効果的にできるようにする。また、ドリル教材を用いて基礎的・基本的な知識及び技能の習得を促進する。
 ◎集団で学習することの意義を認め、個人内の解決力と集団での解決力を高めていく。自分の考えを発表させたり、他の考えを聞かせたりすることで一人ひとりの良さに気付かせ、さらに集団としての力を高めていく。
 ◎読書を通して自らの考えを深める学習態度を養い、学ぶ力を総合的に高めていく。学校図書館司書や図書ボランティアと連携した読書指導の充実を図る。図書館を活用した調べ学習や読書履歴を積み重ねる「本の宝箱」や「緑小おすすめ100」に積極的に取り組み、児童主体の言語活動を活発にする。
 ◎「家庭学習の手引き」「緑の子 学びの宝箱」を活用し、保護者と情報を共有し、家庭学習の習慣づくりを行う。
 ◎朝学習を計画的に行い、基礎学力の向上を図る。(第1,2学年…MIM 第3,4学年…俳句 第5,6年…NIE)

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○「ひとみ学習」の徹底(一人で、友達と、みんなで) ○各教科の授業で「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→課題解決→新たな課題の設定」という学習の流れを定着させ、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○学習の目標を明確に示し、授業の終わりに毎時間振り返りを行う場面の設定を継続し、指導内容や指導方法について教師自身が振り返り、評価し、常に指導改善を図っていく。	○「読み解く力」の6つの視点を意識した授業を週1回以上意図的・計画的に継続して実践する。 ○6年生のRSTを活用・分析し、高学年のNIEを定期的(1週間に1回)に取り組みせる活動を年間を通して実践する。 ○プログラミングの思考を育成するために各教科で年間計画に位置付けて指導していく。	○生活科、総合的な学習の時間の学習を通して、各教科等での学習を活用しながら整理・分析し、相手や目的に応じてまとめ・表現する力を身に付けさせる。 ○日常的な言語活動(読む・書く)や主体的・対話的な活動(つなげタイム、KS法、PCを活用した意見交流等)を充実させる。 ○児童の学び(学習の流れ)とSDGsを意識した単元計画(ESDカレンダー)を工夫・作成し、授業を展開する。 ○校内研究で研究課題にもとづいた検証授業を行い、協議することで指導力の向上に生かす。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○低学年では、MIMを実施し、読みの力の段階に応じた授業を行い、確実な読みの力を習得させる。 ○本校の緑豊かな環境を生かし環境教育(ESD)を推進する。iCS委員会と協力し、地域の環境・学習材を活用した授業を意図的、計画的に実践する。 ○校外の人材活用によりその道のエキスパートとの出会いから、様々な学びにつなげる。 ○4～6年では交換授業(理科・社会)を実施し、同じ指導と評価を行い小中一貫教育(学級担任制→教科担任制)を推進する。	○校内研究の主題である「持続可能な社会の創り手となる児童をめざして」を基軸として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。【ESDカレンダーによる】 ○本校の緑豊かな環境を生かし、ESDおよびSDGsの視点を踏まえた自然体験活動を軸にした環境教育を進める。(1,2年・・・植物、生き物 3年・・・緑小の樹木 4年・・・たけのこ掘り、推しの木 5年・・・ピオトープ 6年・・・世界のSDGs) ○地域の人材ボランティアや企業の出前授業を活用し、協働・対話による「課題発見・解決学習」をすすめ、持続可能な社会の担い手を育成する。	○学習内容や思考の過程が分かるノートづくりの指導と効果的なICTの活用を推進する。 ○場面や内容に応じて、ノートやICT機器を使い分け、獲得したことを分かりやすくまとめたり、説明したりする活動を意図的・計画的に実施する。 ○個に応じた学習を行い、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるようにする。 ○グループ学習を各学年の発達段階に応じた人数で取り組ませ、仲間と一緒に課題を解決することの喜びを味わわせる。